

2016 ほたるサミット in 阿久比

参加市町の取り組み

昭和27年に天野川のゲンジボタルが国の特別天然記念物に指定され、平成19年には米原市蛍保護条例を市全域に拡大し、ホタル保護と環境保全の意識高揚に努めています。「ホタル」を市のシンボルと位置付け、市民やボランティア団体などとの協働により、バトロールやカワニナの養殖、小学校での環境学習などを通してホタル保護活動に取り組んでいます。

滋賀県 米原市
 ホタルが輝き
 笑顔あふれる希望都市
 まいばら

岡山県 真庭市
 豊かな自然と地域資源を
 生かした人と環境にやさしい
 真庭市

ホタルの生息地として広く知られている北房地域では、昭和45年に地域の住民が保護団体を結成。現在は、「北房ホタル保存会」が中心となって、シーズン前に河川清掃や草刈りといった生息環境保護、遮光幕の設置による光害防止活動などを行っています。

また、「北房ホタルの文化推進継承の会」が、小学校や住民を巻き込んだ学習活動や発表会を毎年実施しています。

愛知県 阿久比町
 「ホタル飛びかう、
 豊かな自然を守ります」

サミットのテーマでもある「自然と人間の共生 ホタルを守ろう」を合言葉に、「ホタル飛びかう住みよい環境づくり」を目指し、昭和58年からヘイケボタルの調査研究を行っています。

「ふれあいの森ホタル養殖場」は、1年を通してホタルの生態が観察できるように開放し、6月下旬の「ほたる観察会」では夜間開放やポスター展示を行っています。また、白沢ホタルの里でも6月中旬から7月初旬まで観察会を開催しており、ホタルを通じて命と環境保護の大切さを来場者に伝えています。

さらに、町内の全小中学校では、ホタルの生息分布調査などに取り組んでいます。なかでも東部小学校では飼育活動を行い、6月にはホタル鑑賞会を開催し、全児童がホタルを通して環境の大切さを学んでいます。

平成23年度からは、養殖場で飼育しているホタルの幼虫を養殖場の外へ放流しています。

山口県 下関市
 「ホタルのひかり」と
 「人のひかり」

豊田地域では平成元年から町内の小中学生を対象に「ホタル情報員」制度を開始し、ホタルの発生状況を毎日モニタリングしています。これらの情報を基に、ホタルの生息図「ホタルマップ」を作成し、追跡調査などを継続して実施しています。

また、ホタルの飼育・観察・研究活動を通じて、生態学習や保護保全活動に取り組むなど、自然環境の保全および普及啓発活動を推進してきた功績が認められ、下関市立西市小学校が、平成27年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞しました。

和歌山県 紀の川市
 豊かな自然を守り、
 自然とのふれあいを大切に

各生息地域では、地元ボランティアによって、観賞会やホタル祭りなどを開催し、自然環境保護に取り組んでいます。

そのひとつ貴志川町では、ホタルが壊滅に近い状態でした。そのことを憂う住民の声に対して中学生たちが、昭和50年にゲンジボタルの調査に立ち上がり、その5年後には、2万匹を放流できるまでになりました。現在は、地元保護団体が飼育活動に努めています。

また、ホタルの自然発生が活発な地域では、河川清掃を始め水辺環境を守るために、ホタル保存会の会員や地元の子もたちが地道な活動を行っています。

福岡県 北九州市
 ほたるのふるさとづくり
 ～ホタルと共生できる
 都市を目指して～

昭和54年に始まった市民の手によるホタル保護育成活動は、その後、市内の約40団体に活動が広がり、現在では、60を超える河川でホタルが見られるようになっていきました。

平成14年に「北九州市ほたる館」、平成25年に「香月・黒川ほたる館」がそれぞれ開館。これらの施設を拠点として、ホタル保護育成活動をサポートする「ホタルアドバイザー」の派遣、ホタルの生態を学ぶ「ほたると水辺の環境学習会」の開講、自分のホタルを育てる「マイボタル」制度など、ホタルについて学び、体験する事業を進めています。

